

令和4年度京田辺市大学連携地域貢献研究事業実績報告書

●研究課題名

農と食を活用した市民主導型まちづくりの推進
-地元産大麦とマコモタケの商品化の試みを軸として-

●研究者名

沼本 穂（摂南大学農学部） 田中 茂幸（摂南大学農学部）
中塚 華奈（摂南大学農学部） 小林 基（摂南大学国際学部）

●研究期間

2022年4月1日～2023年3月31日

●研究の概要（背景・目的等）

京田辺市は、これまで豊かな自然環境と高い利便性を活かし、便利なコンパクトシティの形成と子育て支援を中心とした街づくりを一定の成果を上げてきた。農業をめぐっては従来、水田稲作のほか、京都市場向けの茶の生産、大都市市場向け野菜生産がなされ、いずれも高い品質と生産性を実現してきた。しかしながら、農業従事者の高齢化や就労者層の流出により脱離農が進み、耕作放棄地が増加傾向である。都市農業の公益機能を慮るにあたり、本市の農地を活用や様々な形でのネットワーク形成を提案し、まちづくりにつなげる取り組みは喫緊の課題となっている。上記の現状を踏まえ、私たちは、「食農」の活性化および地域資源の活用と循環を進めることを軸に、本市がすでに有している各種の資源をつなぎ合わせた都市マネジメントのためのプラットフォーム形成を行うことを目標としている。

本研究は、地ビールやマコモタケを中心とした商品開発に向けた栽培・加工実験を行いながら、大学・事業者・市民のネットワーク拡大とそのモデル化を試みた。

●研究の内容（方法・経過等）

商品開発に向けた栽培・加工実験

クラフトビールの製造に向け、ビールの原料である大麦品種「ゴールデンメロン」を京田辺農福観地域づくり協議会とともに育成しており、収穫した大麦で試験醸造を行っている。また、本市内からビール用酵母を開発するために、栽培している大麦の葉、土、および菜の花から酵母の単離し、種の同定を進めている。

耕作放棄地を活用したマコモタケの栽培実験においては、2022年5月に大御堂観音寺の所有地に3品種のマコモタケを栽培し、9月から11月にかけて収穫した。収穫したマコモタケは、9月24、25日のLove京田辺マルシェにて一般市民および京田辺市役所に配布し、アンケート調査を行った。

農地活用を核とした啓発活動、ネットワーク構築

本大学の地域連携を図るため、大麦・ホップおよびマコモタケの栽培にかかる様々な作業について、農福観地域づくり協議会と連携して農作業体験の市民参加者や学生参加者を募った。

また、市役所市民参画課の協力を得て、京田辺市内のまちづくりの現状および課題について学ぶ市内ツアーを実施したほか、同日午前においてさんさん山城の協力により、茶摘み体験会を実施し、京田辺市におけるまちづくりの取り組みや魅力を学んだ。

このほか、本活動のPRとして2022年11月26日に摂南大学国際文化セミナーを開催して本活動の概要を一般市民に紹介するとともにさんさん山城の新免様と京田辺農福観地域づくり協議会の岡本様にご講演いただいた。また、2022年12月5日のLove京田辺マルシェに学生と一緒に出展した。

●これまで得られた研究の成果

商品開発に向けた栽培・加工実験

2021年11月に大住地区で約4000粒の種子を種まきし、2022年5月に約37kgの大麦種子を収穫した(図1)。収穫した種子のうち、12kgを2022年度の大麦栽培に使用し、大住地区と三山木地区の農地に植え付けした。残りの約25kgは製麦し、2023年3月16日に試験醸造を行った。その際に学生6名が醸造体験に参加した(図2)。製造したビールは、5月14日にお披露目を京田辺市大住地区で行う予定である。また、6月4日に開催されるLove京田辺マルシェで試飲を行う予定である。

マコモタケの栽培においては、9月22日～11月9日の間に35株から計390本を収穫することができた(図3)。この1年間の栽培において一連の作業工程を知ることができた。地元の農家との交流も広がり、栽培方法の情報交換をすることができた。得られたマコモタケのアンケート結果では、今回の配布で初めて食べた人が多いが、とてもおいしいと好評だった(図4)。

農地活用を核とした啓発活動、ネットワーク構築

まず農作業のボランティア参加者として延べ100名程度のご協力を得ることができた。また、京田辺市の地域課題や魅力について学んだ学生たちの一部が、京田辺市主催の政策グランプリJAPANに出場し、「京田辺犬プロジェクト SDoGs計画」と称するまちづくり提案を行った(図5)。

市民向けに行った国際文化セミナーでは合計70名程度の参加があった(図6)。このほか、大麦の収穫作業はKBS京都により、マコモタケの研究については地元紙・洛タイ新報によって取材を受けた。また、年度末には南部まちづくりセンターにおいて本プロジェクトの手短な紹介を行い、地域内の市民活動家たちとのつながりを形成できた。

● 具体的データ等



図 1. 大麦の収穫



図 2. ビール醸造体験

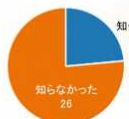


図 3. 収穫したマコモタケとマルシェの展覧

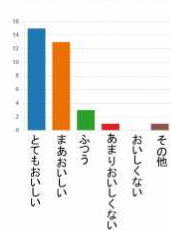
マコモタケに関するアンケート調査



マコモタケをご存じでしたか？



マコモタケを召し上がったご感想は？



今後マコモタケを購入したいと思いませんか？



どのように調理しましたか？



図 4. アンケートの結果

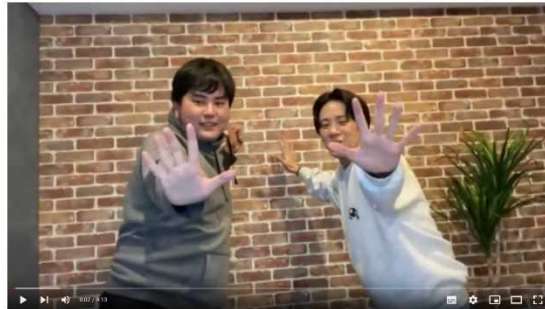


図 5. 京田辺市主催の政策グランプリ JAPAN「京田辺犬プロジェクト SDoGs 計画」



図 6. 摂南大学国際文化セミナーの風景

●研究を通じての自己評価

本年度の研究を通じて、ビールの醸造もマコモタケの栽培実験も順調に行うことができた。今後は、これらの販売戦略および地域コミュニティづくりにさらに力をいれて取り組んでいきたい。

●その他

2023 年度も引き続き、ビール醸造に向けた大麦とホップの栽培およびマコモタケの栽培を行います。一緒に農作業をしていただける方、大歓迎です！